

北 河 内 会 報 自 然 愛 好 会

2017年1月1日 №.98
北河内自然愛好会発行
事務局：大東市野崎 3-7-7
西畑敬一 方

ホームページアドレス：<http://www.cc-net.or.jp/~ja3aeh/3shizen/3-3kitakawati.htm>

第 378 回例会 「尊延寺を歩く」 枚方市

2016年9月15日(木)

田中光彦

氷室台バス停から集合場所のとくふうホーム前まで同じバスに乗っていた人たちと道端の植物を観察しながら歩いた。民家から逃げ出したショウジョウソウがきれいな赤い葉をしていたが、とても小さな花を咲かせていた。トウダイグサ科らしい花だった。道路の反対側の荒地では一面をママコノシリヌグイが覆いつくして、きれいな花盛りだった。その道路の反対側の空き地にオヒゲシバが生えていたことを後で西畑さんに教えてもらった。集合場所に少し遅れて着き皆さんと合流する。

尊延寺方面に向かって坂道を下りながら植栽のセンナの花や、ツルマメ、スズメウリ、ミヤマガマズミ、ウメモドキ、カマツカ、オニドコロ、ヤマノイモ、エビヅル、ノブドウ、ツユクサ、ヒガンバナ、クズなどの花や実を観察する。三叉路に出て正面の水田を見ると、アメリカミズキンバイ、アゼナ、コナギ、アメリカコナギ、チョウジタデ、オモダカ、ヒデリコなどが咲いていた。よく見るとミズオオバコの花も見つかった。すぐ近くにキンエノコロとコツブキンエノコロがあり、並べて比較することができた。また田の横では植えられているアズキに花が咲いていて、少し歩くと花を着けたたくさんのノアズキ(別名ヒメクズ)も出てきて比べることができた。クズも近くにあり葉も比べてみる。次の水田でもミズオオバコの花が見られた。テンツキ、ノテンツキ、ヒンジガヤツリ、イヌビエ、タイヌビエ、ヒメタイヌビエ、ケイヌビエなど湿地の植物を見たり、タカサブロウとアメリカタカサブロウを比べてその違いを見たりした。草刈りのされていない草ぼうぼうの所をかき分けて進むと一段高い所の田畑の入り口に着く。そこからは草刈りがしてあった。

休耕畑のコスモスの隙間をぬって奥に入るとコシンジュガヤが大繁茂していた。ミズギボウシは実になっていたが、ウメバチソウの花はまだだった。しかしアキネジバナが咲いていたのでうれしかった。穂谷以外で見るのは初めてだ。さらに進んで次の三叉路横の畑の斜面でヘチマのような形のカボチャが生っていた。ツルクビとかいうものらしい。途中スズサイコの花を見てトイレのあるやすらぎの丘霊苑の外で昼食とする。

午後はトキリマメやヒメキンミズヒキの花などを見ながら後戻りして陸橋を渡り、上の田んぼの方へは行かないで、左手の細い巻き道を通って大尽池へ行く。途中シカクイ、ヤマイ、ハイヌメリ、スズサイコ、コガンピ、オガルカヤ、メガルカヤ、ツリガネニンジン、ワレモコウ、アブラガヤ、オニガヤツリ、サワヒヨドリ、ヒヨドリバナ、ネコハギ、ダンドボロギク、ベニバナボロギク、アゼガヤツリなどの花を観察する。大尽池の下ではイヌノハナヒゲが大きな株になっていた。池のすぐ下の道横にあるミヤコオトギリが目的だったが、残念ながら花は着けていなかった。しかしその横でまたアキネジバナの花を見ることができた。下見の時には気づかなかったのでラッキーだった。帰路ヌスビトハギの花を見て車道を横切り、もと来た道を引き返し、カボチャの三叉路で左に進み、ミツバアケビの未熟な実をいくつか見て竹やぶの所で、蚊に吸血しながらクロヤツシロランの花をみんなで探したがわからなかった。雨のせい今年少し遅いのではないかと思った。

それからバス停へ向かって歩く。尊延寺のバス停の約 100m ほど手前で 50 株ばかりのオグルマが咲

いていた。去年埋め立てられて駐車場になる前はもっとたくさん見られた湿地だった。まだ少しでも残っているだけかもしれません。

[上記以外に観察できた植物] キツネノマゴ、アレチヌスビトハギ、ノアザミ、コマツナギ、キダチコマツナギ、カナビキソウ、トダシバ、エノコログサ、アキノエノコログサ、アゼガヤ、カゼクサ、スズメノヒエ、シマスズメノヒエ、チゴザサ、オヒシバ、メヒシバ、チカラシバ、ゲンノショウコ、イヌキクイモ、アキノノゲシ、ヨウシュヤマゴボウ、イノコヅチ、イヌガラシ、ヤブガラシ、コケオトギリ、カラムシ、オッタチカタバミ、イタドリ、ヘクソカズラ、ヒメジョオン、コニシキソウ、オオニシキソウ、ヤナギハナガサ、ウド、ヌルデ、タラノキなど

◎参加者：大津由紀子、太田理、北川ちえこ、鈴木永子、田中光彦、長島照文、中町荅子、中山千代美、西畑敬一、発ひとみ、山田美鈴、山田良之（以上 12 名）

第 379 回例会「キノコの観察会」四條畷市室池園地 2016 年 10 月 22 日（土） 西畑敬一

午前 10 時室池園地の駐車場に集まったのは、9 名、昨年同様少人数での観察会となった。講師の下野先生と共に散策を開始。しかし、2～3 日前に雨が降ったにもかかわらず園内は乾燥状態、ナラ枯れに侵され切り倒された木には硬いキノコばかりが目立つ、それでも先生は一つ一つ丁寧に解説していただき、色の変化、模様、傘の裏側などをみて種を判断すること、また、臭い、味も同定の判断材料になる、要は五感を働かせることも大切だと教わる。予定では湿生花園を通過して園内で採集するつもりであったが、あまりにも柔らかなキノコが見つからなかったので予定を変更して木道突き当りを東に進み、道路を渡って四條畷市立野外活動センター裏のふれあいの森の方に行き先を変更、これがよかったのか、コース脇のコナラにヌメリツバタケが多数発生しているのを発見、また、ふれあいの森の中ではヒラタケやアラゲキクラゲが多数発生していて参加者一同おおいに盛り上がる。

写真を撮る人、あちこち他にキノコが無いか探しまわる人など、参加者のテンションがあがる。ひとしきり観察や探索を終え、この道なら他にももっと多くのキノコに出会えるのではないかと思ひ、堂尾池まで観察を続ける。残念ながら堂尾池までの道すがらにはこれと云ったキノコも見つからずさみしい限りであった。ここで昼食をとり食後、各自採集してきたものを、ブルーシートに並べ、先生に同定をお願いして、各々にラベルを付け解説を聞く。今回も樹上性の硬いキノコが多かったが柔らかなものも多数採集され、中でも食用になるハタケシメジやヌメリツバタケ、ヒラタケ、アラゲキクラゲなどは参加者の食欲を注いだようであった。先生の解説のあと各自自分の欲しいものをゲットして、残りのものは堂尾池の土に返して、もと来た道を引き返し園地駐車場で解散となった。

当日採集されたキノコ：アラゲキクラゲ、イッポンシメジ属いろいろ、イリガワリホコリタケ、ウスヒラタケ、エセオリミキ、オオゴムタケ、オオミノコフキタケ（広義のコフキサルノコシカケ）、カイガラタケ、カワラタケ、キヌハダタケ？、クズヒトヨタケ、クジラタケ、クダアカゲシメジ？。クヌギタケ属、ケシワウロコタケ、ケコガサ属、コカブイヌシメジ、ザラエノヒトヨタケ？、スマレホコリタケ？、スマレウロコタケ、チャカイガラタケ、チシオタケ、チャウロコタケ、クロコブタケ、ナラタケモドキ、ニガクリタケ、ニクウスバタケ、ヌメリツバタケ、ネンドタケモドキ、ハカワラタケ、ヒイロタケ、ヒナアンズタケ、ヒメカバイロタケ近縁、ヒラタケ、フウセンタケ属、ブドウタケ、マメザヤタケ、ミイロアマタケ、モリノカレバタケ属

§§感想文「キノコの観察会に参加して」2016 年 10 月 22 日-----もも

実りの秋となり、たくさんのキノコに出会えるのでしょうか。今日は一人静さんの不参加で、少々不安な気持ちで出かけましたが、四條畷のバス停で鈴木さんに会えて、無事に集合場所にたどり着けまし

た。ホッ！集合の挨拶の後、歩き始めたら早速「一人静さんがいなかったら静かだね」の声が聞こえてきました。

なかなか思うようにキノコを見つけられなかったら、あっ！「木の粉」木のおがくずでした。これには笑えました。私の袋は空っぽでしたが、下野先生のカゴにはたくさんのキノコです。

こもれば広場の倒木に、たくさんのアラゲキクラゲが群生していました。近くでアオゲラのドラミングを聞きました。落葉したハート形で可愛いカツラの木の葉。甘いカラメルの匂いが落ち葉のマットから漂ってきます。昼食を取ったトイレの近くで、好きな花の一つであるアケボノソウが咲いているのを教えて頂きました。感激しました。小さな1本の花でしたが来年も会えますように。

たくさんのキノコを採取し、キノコの説明をして頂きました。コカブイヌシメジは桜餅のような匂いがしました。ニガクリダケ、有毒です。噛んでみました。苦いです。唇が少しひくひくしましたが安心して下さい、生きています。後味は悪くはありません、来年はぜひ皆様も参加して噛んで味見をしてみてください。（編集者注：講師の先生の指示に従ってください。）キノコの説明は覚えが不確かなので、省略させていただきます。

帰り道、高い木にたくさんのヌメリツバタケ、白くてきれいなキノコです。なんと山田さんがすると登りキノコを採取し、またまたすると降りてきました。お見事でした。

まだまだ秋の装いにはほど遠い季節でしたが、充実した例会でした。案内していただいた下野先生はじめ会員の皆様、有難うございました。

参加者、中山千代美、長島照文、古賀聖二、林登勢雄、鈴木永子、稲原良三、山田美鈴、山田良之、西畑敬一（以上9名）

第380回例会「甲山の自然（地質・湿原植物・その他）」 西宮市

2016年11月28日（月）

長島照文

前日の降り続いた雨で紅葉もあまり期待できないかなと思いつつの参加だったがバスを降りた北山貯水池の前ではコナラかクヌギか鮮やかに黄金色に輝いていた。真っ赤なハゼの木は葉に毛がないリュウキュウハゼと教えてもらい、ヤマハゼとの違いを聞いた。観察池の周りにはセイヨウヤマハンノキとハンノキの両方があり雄花の長さや葉身の幅の違い、葉芽と雌花の違いが観察できた。花後のオオイヌノハナヒゲやカモノハシという初めて見る湿生植物を教えてもらった。そうそう、その前に美味しいひと騒ぎがあった。すくっと立ったスマートな木の上部にブドウのような色をした親指大の実が鈴なりなのである。手の届くところの枝にヘタのようなものが見えるだけで葉はすでに落ちてしまっている。小粒の柿の仲間だろうということで幹をゆすってみるとパラパラと落ちてくれる。食べてみると熟柿というより干し柿やムクノキの実に近い味わいである。何度かゆすって落としてみんなに行き渡ったようである。うまく枝付きで落ちてきた実を写真に収める人達も。参加者から「ブドウ柿」ではないかという声があった。

ここから甲山山麓の周遊の森に入る。裏が白いコナラの小さな落ち葉を踏みしめ、主に樹木や落ち葉の観察をしながら静まり返った気持ちの良い森を歩く。途中3箇所ほどウラジロ（シダ）の大きな群落に出会う。斜面を陣取り圧倒的な量感で迫るこの緑の絨毯に眼を瞠（みは）る。

樹皮の色と模様から名前がつけられたという、小さな葉と緑の樹幹のウリハダカエデ、よく似た名前の紅葉した広い葉をもつウリカエデとを見比べて確認できた。この辺りの森ではウリハダカエデの方が目立って多いし幼木も育ってきている。

歩いていると黄葉した幅広の葉柄の長い葉が散乱しているのが気になる。講師の先生によればイワガ

ラミカツルアジサイだろうとのこと。振り返ると高木に巻き上ったつる植物が見える。持ち帰って調べたところ葉柄の長さや葉脈に毛があるところから確かにツルアジサイのようだ。

あまり見かけないハイノキ科のクロキという緑に黒味がかかった葉っぱの樹木や、紅葉しながら狂い咲いているコバノミツバツツジも見られた。いくつ目かの湿生花園で花後のノハナショウブやヌマガヤ、ホシクサを見せてもらった。

「甲山自然の家」の日当たりの良い玄関口で三々五々の昼食タイム。超ミニの小さなクワガタを5~6匹捕獲した親子連れに出会う。聞いてみるとチビクワだと言い朽木を掘って探したとのこと。この森で遊ぶ常連さんのようである。

食後、神呪寺（甲山大師）に参詣し西宮市内から神戸港、大阪湾を含む大阪方面までの大パノラマを楽しんだ。甲山大師を後にして稲原さんのガイドで駆け足の八十八か所石仏巡りとなった。案内された眺望絶景の場所には大きな花崗岩の切り出し痕を持つ巨岩が鎮座していた。これは大阪城築城時に切り出そうとしてノミを入れたが、上手く切り出せなくて斜めに割れてしまったために放置されたものだろう。その原石と片割れがノミ痕を残して揃って残っているところがなんとも面白い。確かに稲原さんお薦めのこの場所からの眺望も格別で、お寺と甲山の紅葉が見事に調和して絵葉書のようなものである。

この場所にはもうひとつ興味深いものがあると教えてくれたのは花崗岩を貫通した安山岩（マグマの冷えた岩石）の岩である。「甲山自然の家」の前にも展示されているが貴船でも同様のものを見せてもらった記憶がある。こういうものを見ると改めて地球の成り立ちと自然の威力を意識させられる。

なお、この近辺の樹木ではまだ白い葉を残しながらウラジロノキが赤い俵型の実をつけていた。

この時期だから花はもうあまり見ることはできなかったが、色々な樹木と種子となった湿生植物や紅葉が十分楽しめた。ピークハントはできなかったが麓一周のこのコースはゆっくりと森の散策を楽しめた。また春や秋の花の季節に訪れてみたいものだと思いますながら甲山を後にした。

西畑会長、田中先生、稲原さん、ありがとうございました。

◎観察した樹木・植物など：アオミヤマカンスゲ・アキノキリンソウ・アキノタムラソウ・アセビ・アツバキミガヨラン・アベマキ・アラカシ・（アロカリア）・イヌガヤ・ウツギ・ウラジロノキ・ウリカエデ・ウリハダカエデ・エノキ・オオイヌノハナヒゲ・カナメモチ・カマツカ・カモノハシ・キセルアザミ・キレハノブドウ・クヌギ・クマヤナギ・クロキ・クロモジ・コアジサイ・コシアブラ、コナスビ・コナラ・コバノミツバツツジ・サカキ・サザンカ・セイヨウヤマハンノキ・ソテツ・タカノツメ・ツルアジサイ・トウカエデ・ドウダンツツジ・トックリ蜂の巣・ナツハゼ・ヌマガヤ・ネコヤナギ・ノハナショウブ・ハンノキ・ヒイラギ・ヒサカキ・ヒメイボタノキ・ヒメジオン・ヒメユズリハ・ブドウガキ(マメガキ)・ホシクサ・ムクノキ・ムラサキシキブ・メリケンカルカヤ・モチツツジ・ヤクシソウ・ヤシャブシ・ヤブタバコ・ヤブムラサキ・ヤマモモ・ヨシノアザミ・リュウキュウハゼ・リョウブ・リンドウ

◎：稲原良三・ヒサエ、久保幸子、田中光彦、長島照文、中町荅子、中山千代美、西畑敬一、岩井幸恵、中野潤子、西川節子、藤原くに代（以上12名）

《会員交流コーナー》

§§<風神さんを彫りました>雷神さんに続いて風神さんを彫りました(添付)。見てやってください。言い訳=分厚い材料が手に入らず、薄かったので、彫りが浅く迫力が乏しいものになりました。(9/10 平 研)

§§<思い草>私市の植物園にしっかりと秋が来たことをナンバンギセルが、長年にわたってわが生育場所を

頑なに確保してきた何時ものところに物思わしげに告げていました。毎年誰かがここに植えることもしないのに、毎年ここに芽生え、ここから頑固に動こうとしないこの草、たまらなく好きです。(9/15 平)

§§<田原にもカエンタケ!>ここ数年、交野市よりカエンタケ情報が届いていますが、四條畷市田原にもいよいよ本格的に“立派な”カエンタケくんが発生しました。薬尾寺池への道、緑の鉄の橋から上 25 m くらいの右側に 10cm や 7cm くらいの大きいのが、さらに上にも。道端から、2、3 m のところで道からもあれ!? 「赤いのがあるやん」とよく見える。堂尾池下、アキノギンリョウソウが出ていないかなと奥の方まで見に入ると、見つかったのはカエンタケでした。(9/17 太田理)

§§<犬も歩けば>天野川左岸を歩きました。

- 1.野鳥掲示板=天の川の水辺の鳥を採り上げたテーマ、レイアウト、解説、その総てが初心者に興味と理解を深めるものの見事に整理されて展示されています。すっきりとしていて内容が充実しています。田村さんご苦労様です。
- 2.カワセミはダイビング採餌のサービスをしてくれました。
- 3.ケリ=スラリとした出で立ちで迎えてくれました。かつては「田んぼ 1 枚に一番いた」と云われたものが今では、大阪府レッドリストでは準絶滅危惧種に指定、貴重種になりました。
- 4.ハグロトンボ=翅を広げたり、閉じたりして挨拶してくれました。全身黒装束ながら愛想のよいトンボです。
- 5.ツユクサにホソヒラタアブ=ツユクサにホソヒラタアブが来ていました。短命の一日花のツユクサ、虫が来てくれなければ、午後になると長い雌蕊を巻き上げてシブシブ自家受粉しなければなりません。ホソヒラタアブさん、よく来てくれました。(平 9/17)

§§<教えてください>昨日、大正区の千島公園から渡し船に乗り西成公園へ調査に行ってきました。閉鎖されたかのような西成公園で、もう忘れかけていたセンダングサを見ました。センダングサは過去に千島公園で見たことがあり、このあたりには捜せばまだ何処かにあるのかもしれませんが

さて、色々見て面白かったのですが、分からない植物もありました。分かるものがあれば教えてください。また、種名が間違っているものがありましたら教えてください。よろしく願い致します。
simanisiki.jpg...シマニシキソウ、千島公園・昭和山頂上、以前田中さんに送っていただいたコニシキソウ仲間の写真が役に立ちました。

hainisiki.jpg...ハイニシキソウ、千島公園、写真が不明瞭ですが、果実の稜に白い毛がありました。

nisiki2.jpg...不明、小林公園、30 センチくらいに立ち上がっていました。花を捜すのが大変なくらいに少なかったです。

plant1.jpg...不明、西成公園、さわるとビロードのようでした。葉の付け根のツノのような小葉も特徴的でした。葉裏の溝もはっきりしてしていました。ぱっと見た目イチビのように思いましたがネットで調べましたら鋸歯が違う(鋸歯と鋸歯の間が波のよう)にと思いましたがこのようなものがあるのかも。クズと一緒に群生してました。

sendangussa.jpj...センダングサ (9/26 北川ちえこ)

§§<回答>西成公園のイチビに似たものは、トウダイグサ科のオオバベニガシワだと思います。一度図鑑などで調べてみて下さい。(9/26 田中光彦)

§§<教えて>田中さん、先日のオオバベニガシワ有り難うございました。葉の根元の突起や蜜腺など、図鑑の記述と同じでオオバベニガシワだと思います。しかし、茎はやわらかく草本のようでした。今ごろアオ色の実生がでるのですね。

さて、本日堺東へ行ってきまして、御陵(仁徳天皇陵)通りと中央環状線の交差する花壇に知らない

植物が生えていました。どちらも一株しかありませんでした。

1.マメ科？（花がマメ科らしくない）全体に毛が多く、ねばり、ケアリタソウのような匂いがしました。

2.イネ科は小花がイネのように大きい。分かりましたら、よろしくお願ひ致します。（10/1 北川）

§§<回答>黄色の花のものはキバナヒメフウチョウソウだと思います。以前から沖縄では見られた植物のようです。アフリカの方の原産みたいです。（10/2 田中）

§§<教えて>田中さん、アフリカヒメフウチョウソウ有り難うございました。何処を探していいのか見当もつきませんでした。

さらに教えていただきたい植物があります。場所は梅小路公園いのちの森です。京都では京都に生息する希少な植物を保護する目的で、学校や、企業などの施設で、苗を移植をして育てるプロジェクトが展開されています。いのちの森でも、昨年辺りから植栽が始まりました。ヒオウギ、ノハナショウブ、エビネ、カラタチバナ等々です。その土に付いてくるのでしょうか、植栽以外の花も出てきます。添付の写真は教えて頂きたいものや、間違っていたら教えて欲しい植物です。

akichoji.jpg...アキチョウジ

hiretagobo.jpg...アメリカミズキンバイ、これはコガマから出てきたもので、ひよろひよろと高く、普段見ているものと雰囲気が違うのですが、果実がそうかなと思ひまして。

plant3.jpg...全く分かりません。花がオドリコソウのように輪生しています。

plant4.jpg...シソ科？昨年9月19日撮影、高さ40センチくらい。よろしくお願ひ致します。（10/2 北川）

§§<回答>私はキバナヒメフウチョウソウと書きましたが、正しくはキバナヒメフウチョウのようです。帰化植物写真図鑑 I の 85 ページ参照。北川さんが書いているようにアフリカヒメフウチョウソウとも言うのかどうかは知りません。（10/3 田中）

§§<ゴールドenspайダー>ゴールドenspайダー=金のクモ（金色のクモの巣）。その存在を知って20年、何時かは出会いたいと思っていましたが昨日、星田新池の下の広場で、これがそうかと思われる黄色の巣に出会いました。曇っていて金色には光っていませんでしたが、陽を受けたら金色に光るに相違ないと思ひながら シャッターを切りました（添付）。宿主のクモはいませんでした。天気の好い日にまた行ってみます。（10/3 平）

§§<失礼しました>アフリカヒメフウチョウソウではありません。フウチョウソウと言えばアフリカフウチョウソウと覚えていて、つい間違っしてしまいました。なぜこの名前を覚えているのか分かりませんが、キバナヒメフウチョウですか。教えていただいて間違っは何にもなりませんね。お許してください。おかげで、この風変わりな植物を覚えました。ありがとうございました。みなさまお騒がせしました。

（10/3 北川）

§§<犬も歩けば>星田新池から星田田圃へ。

1.星田新池では、昨日のゴールドenspайダーは新しい網を張っていました（添付）。でも、曇りで輝いてはいませんでした。残念。宿主のジョロウグモがしっかりと構えていました。

2.星田田圃では、サクラタデが今年も、畦草の刈り残された片隅で咲いていました。毎年秋には会わずにはおれない花です（添付）。以前はあちこちで見られたのが、今ではここだけになってしまいました。貴重種になりました。（10/4 平）

§§<アフリカフウチョウソウ（添付）>思い出しました。大阪市庁舎の屋上調査で見つけた植物でした。確か、西畑さんに名前を覚えていただいたように思ひます。アフリカフウチョウソウはキバナヒメフウチョウのように立っていないくて、地をほうように生え、色はムラサキ色でした。特徴的でしたのでし

かり花も見えていませんでした。花のつき方は違いますが、花も葉も大きさ、形は同じようだったと思います。覚えていましたらある程度見当がついたのでしょうか、修業が足りませんね。キバナヒメフウチョウ覚えましたが撤回です。みなさま、再度のお騒がせ、お許し下さい。(10/4 北川)

§§<ゴールドenspайダー>ゴールドenspайダーのなぞが解けました。ジョロウグモの巣の横糸が黄色なので、光が当たると、見る角度によって金色に光って見える。ということのようです。光が当たっている巣を、いろいろな角度から見てください。(10/5 平)

§§<ゴールドenspайダー>今日、陽が射したので植物園にゴールドenspайダーを写しに行きました。風が吹いて写し辛らく、太陽の光を金色に反射する角度を見つけるのが困難でしたが、何とか写せました。(10/6 平)

§§<犬も歩けば>天野川の河川敷に、金平糖の花が咲き乱れていました。しばし、しゃがみこみました。(10/14 平)

§§<金平糖の花>金平糖の花=ミゾソバがウシノヒタイ(牛の額)とも呼ばれているとか。なんでやねん。また天野川の河川敷へ行きました。判りました。添付の画像を見てください。この葉っぱの形でした。そもそも誰がこんな名を…。(10/15 平)

§§<今年も咲きました>飯盛のアケボノシュスラン。もう一つは、金剛山で採集された、ツルギキョウです。今春、幼苗を頂き栽培していたものが、本日、開花をみました。(10/17 西畑敬一)

§§<オヒゲシバでは?>昨日、大阪北港ヨットハーバー(大阪北港マリーナ)から伝法へむかい調査をしてきました。川沿いにはクサネムやアメリカネナシカズラといった、最近この辺りでは見かけなくなった植物が生えていました。クサネムはアメリカクサネムと今だ見分けが怪しいのですが、図鑑やネットでの記述を参考にクサネムと判断しました(貼付写真)。間違っていましたら教えて下さい。

さて、調査最後の方で参加者が持ってきたイネ科ですが、9月に教えたいただいたアフリカヒゲシバに似ていたのを調べました所、たぶん同じものだと思います。図鑑で調べましたら穎に長い毛があるのはオヒゲシバでした。氷室台で教えていただいたものはオヒゲシバではないのでしょうか?(10/17 北川)

§§<犬も歩けば>1.今朝の薄暗い星田新池には、キンクロ 6羽、カイツブリ 3羽が水面に水筋を白く光らせていました。

2.有明の月が西の山の端に浮かんでいました。しまった!豆名月を見損なった。(10/18 平)

§§<見てやっってください>来年は酉年、江戸時代の画家、伊藤若冲の鶏図を摸刻してみました。松の木に止まり、朝日に向かって「トー(東)、テン(天)、コー(紅)」と鳴く雄鶏(オンドリ)、年賀状に使おうと思っています。好かったらお使い下さっても結構です。(10/20 平)

§§<回答>オヒゲシバ、オギノツメ、キセワタ、クサネムでいいと思います。(10/21 田中)

§§<これナニ?>玄関を掃除していたら、こんなものがありました。恐竜の子孫? ムシは楽しいです。(10/25 平)

§§<話題提供>当会の自然環境とは似ても似つかない話題で恐縮ですが…。『大阪春秋』という季刊誌 164号秋号に西畑会長が登場なさっているお話。

P.84-P.87「続・浅野孟府(もうふ)がいた町」という記事をフリージャーナリストの浅野詠子さんが書かれています。浅野孟府は大東市野崎にアトリエを構えていたとのことで、現在の大東市民会館の表と内部に2体の彫像が展示されています。事の発端は、浅野孟府のアトリエが野崎にある、また西畑氏は野崎在住で、そんな人がいたらしいとお話したところ、「3男・磁はおれの同級生や、孟府の家にもよく行っていた」とのこと。浅野詠子さんにそのことを伝えると、是非話を聞かせてほしいと、ということで、西畑氏宅やその近辺、孟府の家の庭などを取材して、『大阪春秋』の原稿になったというい

きさつです。村の青年団が芝居をするのに、孟府に演出を頼んだなど、孟府との繋がりが鮮明になりました。図書館に蔵書されていると思います。ご一読を。なお、ついでながら、163号夏号に「軍都おさか—71年目の戦争遺跡—」が特集されていて、拙文「盾津飛行場—笹川良一と民間の防空」が掲載されています。お読みいただければ幸いです。(10/27 太田)

§§<鳥情報>今朝、南星台の人から、鳥が死んでいたと持ち込まれました。シロハラ 1羽と、ジョウビタキ 2羽でした。調べてみると、3体とも相当に傷んでおり、剥製にできるような状態ではなく、庭の植え込みの中に埋葬しました(添付)。(11/05 平)

§§<Re:鳥情報>シロハラとジョウビタキ、死因は何でしょうかね。気になります。これからもこんな現象が起きるのでしょうか。(11/05 西畑)

§§<教えてください>今日、さわがにの小路の下の方で見かけた樹木です。初めて見たので名前が分かりません。写真を添付しますのでよろしくお願ひします。(11/06 奥田幸男)

§§<回答>ご質問の植物は、実物を見ないと確実なことは言えませんが、画像から推測してテイカカズラの虫癭ではないかとおもわれます。一度図鑑でもご確認下さい。(11/06 西畑)

§§<回答—返信>早速お返事くださりありがとうございます。ネットで検索しましたらやはりテイカカズラの虫こぶのようです。面白い実の形なのでもって帰りましたが、中には虫がたくさんいるそうなので処分します。(11/06 奥田)

§§<Re:鳥情報>市民文化祭で、木彫り教室出展の手配準備などに紛れて忘れていました。返事が遅れて済みません。シロハラは窓ガラスに激突(よくあることです)、ジョウビタキは損傷の状態から見て、車に当たって敷かれた交通事故のようです。双方とも外傷がありますので、通常に起こっていることのようにです。(11/07 平)

§§<犬も歩けば>天気がよかったので、久しぶりに星のブランコへと歩きました。休日で山は人でいっぱい。山路にはツルリンドウが晩秋の柔らかい陽を浴びて、己の命を光らせていました。(11/26 平)

§§<犬も歩けば>もう網に掛かるムシも来ないのか、補修もしていない破れて狭くなった網に止まっている肥え太ったジョロウグモ、秋の陽を浴びて金色に光る網の中で、その精悍さは失われて、秋のあわれを漂わしていました。(添付) (11/26 平)

§§<教えて>添付の写真はジャケツイバラだと思うのですが、間違っているのでしょうか。11月27日にコスモスクエア～南港野鳥園～トレードセンター間を調査してきました。写真の植物は、もとなにわの海の時空間の手前にあるコスモスクエア緑地で、アガパンサスが植栽されていた後にヌルデの実生と一緒に生えていました。海の時空間までの間、草刈り以外は何もしていない状態で、雑草天国でした。野鳥園ではまだ鳥は少なかったのですが、オオタカとチュウヒを見ました。同じ場所にずっといてましたが、雨の中でも狩をしているのでしょうか。(11/30 北川)

§§<白いアイガモ?>昨日の小春日和、家内とドライブ(磐船街道～田原～高山～くろんど池～穂谷～津田～交野)しました。くろんど池に白いアイガモ?(添付) =尾羽がカール。アイガモはマガモの色だと思っていましたが、白もいるのですね。(12/4 平)

§§<ハクビシンの死体>昨夜、地域の人から電話。南星台の傍示川沿いのバス道で、イタチのような大きな死体を見つけた。剥製などに利用できないかと。今朝早く見に行きました。死体はハクビシンでした。交通事故にでも遭ったのか頭部を抉られていてどうしようもなく、山の中に落ち葉を被せて埋めました。(添付) 今夜のまちづくり委員会で写真を添えて報告することにします(自然観察グループ報告)。(12/21 平)

◎会員異動について（敬称略）

退会：岡田雅彦（故人、東大阪市 6/13）、田島妙子（大東市・9/29） 奥田幸男（大阪市・12/31）、久保幸子（寝屋川市・12/16）皆さまへお礼。自動退会者：井方美代子、井方正人、金田牧雄、木本元治、谷 幸三（いずれの方も 12/31）

◎編集後記：新年おめでとうございます。今年もよろしくお願いいいたします。12月の運営委員会の時、西畑会長や木村雅行さんたちをお願いしている『北河内植物目録・補遺』の件で発行が遅れるとの話がありました。聞けば最近植物の分類方法が変わってきているとのこと。詳しいことは私には分かりませんが、ネットで調べてみたら、「私たち日本人が慣れ親しんできた植物の分類方法がここ 20 年程の DNA の分析結果に基づくなどで・・・」ということらしい。総会の折に詳しく聞きたいと思います。編集等について皆さんのご意見ご要望、またお気軽なご投稿をお願いいたします。<お詫び>通常、会報冬号は 12 月発行となっておりますが、今回は少し遅れました。（太田）

【諸連絡の窓口】 ◇会の代表者・会長：西畑敬一 072-876-8114
 ◇会費の納入・会計に関して：稲原良三 072-892-8507
 ◇会報の投稿・編集に関して：太田理 0743-79-9665 会員交流コーナーなども太田宛メールか郵送で送ってください。 ma36ux75ml@kcn.jp 〒575-0013 四條畷市田原台 7-5-2

北河内自然愛好会 年会費 1000 円 郵便振替 00970-4-103735

目 次

第 378 回例会「尊延寺を歩く」田中光彦-----1
 第 379 回例会「キノコの観察会」西畑敬一-----2
 「キノコの観察会に参加して」もも-----2
 第 380 回例会「甲山の自然（地質・湿原植物・その他）」
 長島照文-----3
 会員交流コーナー-----4
 会員異動、編集後記-----9
 例会案内-----別刷
 カラーグラビア版-----別刷



岡田雅彦氏画「ノブドウ」